

生まるる智慧をいただく

生きる智慧をいただく

1 正しい見方をもつ

1. なにごとについても疑惑、心配、恐怖を、自分の内面から放り出せ。
2. 一切を支配しておられる神を信じて、その愛と恵みとの御意志に委ねる。
3. 人生がどのような顔をして自分に迫って来ても、それに支配されてはならない。逆に、人生に対して自分がどのような顔つきをして見せるかが問題である。
4. 神の絶対の愛の支配と現在とを覚えて、どのような時にも、人生に対して不機嫌で腹立たしい想念をもたずにいると、宇宙の善なる力がその者を支えるように働きます。
5. 人生における最も大きい幸福と最も豊かな利得とは、善良なる軽い心である。軽い心とは、明るい心、光りで透き通った心、正しく物事を積極的に見る信仰の心である。
6. 事柄を重苦しく見てはならない。そうすれば、その人は重苦しく抑え付け

られる。抑え付けているものは、重苦しく考えている自分自身の想念である。

7. はかり知れぬ力が、神さまによって自分に与えられているにも拘らず、それを正しく行使しないのは、その人自身である。

8. うなだれて歩いている者は、祝福のまえを通り越してしまう。いつまでたっても、幸いへの転換は起こらないばかりか、暗いものがますます付きま
とって来る。

9. 人の最も深い内奥が、生命全体の流れに繋がっている。人生は神が祝福のために備え、与えられたものである。その神に自分の人生を感謝して生きる者だけが、人生を豊かに出来、次の世界に自分を輝かしてすすませることが出来る。

2 想念心を管理する

1. 想念が現実を生む。神の御意志（想念）が世界の一切を創造した。「神、光りあれ」と言われれば光りありき。
2. 人は、目に見える想念と、目に見えない想念との大海の内に生きている。
3. その人自身が何時も思っていることは、その人の本質の、その人の性格のそして結局は、その人の生活の構成要素になる。不快と疑惑と恐れと怒り恨み消極的感情と想念とが、その人の胸の内に住んでいる限り、それ以上の状況はその人には起こらない。
4. 自分の想念を自覚しない者は、世間や他人の想念の支配に影響されてただ生きるだけである。
5. 自分の内に神の力、愛、支配とを見出す者は、その神に直結しており、その想念によって、自分を光り輝かせ、出来事と物事に秘められた、神の力と智恵とに敏感に反応することが出来るようになる。
6. たった一つの、不安と疑惑とが、あなたの全てを弱める影響力を生む。
7. 晴れやかな想念（感謝・喜び・希望）は身体の生気を潑刺たらしめ、憂鬱

な想念は身体と状況に抑制作用を生じさせ、時がたつにつれて大きな障害を喚び起こす。

8. 神が与えたもうた善き想念（神に畏敬を持つ想念）を、すべての事柄を始める前に持ち、その想念によって構築することによって、それを肯定していなければ、決して具体的な業を始めてはならない。

9. 想念は新しい現実の出生地である。そこから創造力は身体のあらゆる部分に流れると同時に、「より大きい身体」そのものである「生活」のあらゆる部分にも流れ、それを構築する。

10. 想念を神に向けよ、その想念は神となり、その業が現成して来る。

喜びを思え、そうすれば喜びが生ずる。

平和を思え、そうすれば、平和がその者を包む。

憎悪の想念は苦悩を生み、恐れ^の想念は不安を生むだけである。

3 生活を肯定の想念によつて支配せよ

1. 全ての生活の変革は、外からの策では失敗する。ことがらの根っこである内なる想念の変革をなす者だけが、本当に変えられる。

2. 一日を、神の明るい光りを、自分の内に流し込んで始めよう。神の愛と恵みの導きを確信し、神と共に一日を始めよう。これこそ喜びを引き寄せる秘訣である。

3. 批判したり、裁いたり、酷評したりする観念主義者からは、分裂と争いと崩壊だけが生ずる。しかし、互いに尊敬し献身的な生き方は、神に対する畏敬の想念からのみ生まれる。その者の靈魂は、より深く高い神智恵をまし、生活の一切を豊かなものへ導くことができるようになる。

4. 神の願いは、人が善く生きることである。善く生きようと願う者に神はその力を注ぎ、ゆたかに応援したもう。神に向かって自分の想念を全開しよう。たゆまず、繰り返し繰り返し、神の御言葉（聖書）を導きとして、神に在って自分を肯定しよう。必ず神はその人を喜びと感謝との世界に連れて行かれる。

5. いつも満足してしよう。(自己満足ではない。自己満足は人を怠惰にする。自己満足のところでは、どのような進展も無い。自己満足は怠惰な自足であつてそこには本当の満足は無い)
- 満足とは、内心深く感謝の想念で神を喜ぶ事である。どのような時でも、所に於いても感謝と満足の想念で明るくしよう。太陽がその光りを以て世界を隈なく照らす如く。満足の想念が働くところには、全てが若々しい装いに変わる。満足の想念は神にある絶対の平安からのみ生まれてくる。
6. 満足を知らぬ者は愚痴るだけである。愚痴るその想念が、その者をますます不満足にする。必ず善くなると想念を肯定的にするとき、そのことに於いて事態はすでに変わり始める。神はそれを肯定し支えて下さる。
7. 不安は不信と同じである。すべての平安を消滅させ、神の愛の御手を拒否する行為と同じである。
8. 家庭に在っても、外に在っても、出来るだけ善い想念を与えるように心掛けよう。神は、その善い想念を賜物としてすべての人に与えたもうた。それは自分を本当に満足に導く近道である。

4 心配の想念を安心の想念に亦変えよ

1. 外的な事柄に、自分を支配させてはならない。自分の主人は自分である。そして、主人である自分の主人は神であることを知れ。一切の不安は外的なことに支配されている、そこから生まれて来る。人の運命は外的なことながらによって決定されると思うのは、甚だしい誤りである。喜びも悲しみも、腹立たしさもそれらの一切は、自分の想念が生み出すものである。
2. 一切の不安、心配を神にゆだねよ。無一物になれ。自分を神のなかに放り込め。
3. 心配が自分の内から追放されているなら、どのような禍も根を下ろすことはない。
4. あなたの想念の向きを変えよ。闇に向かっていている想念を光りに向けよ。神の愛に自分の想念を全開せよ。闇の想念の部屋のカーテンを引くとき、神の光りが同時に入ってきて、なんの努力も無く闇を消し去る。
5. いつも喜び、すべてのことに感謝し、ことごとく祈れ。そのとき、すべて
の暗さは光りを受けて明るく輝きだすだろう。不安や暗さは、闇にその人

を引きずり込む。

6. 自分が神の宮であることを自覚せよ。土のうつわなる自分が、神の靈を頂いて生かされている者であることを自覚せよ。

7. どのような事態の中にも、自分の靈魂を育てる栄養があることを見出せ。眞の反省は悔いる事ではなく、體驗を自己を育てる經驗に変えることである。神はそのように使うために智慧を与えてくださった。そうすれば、全て感謝できるようになる。感謝して受ける者には、捨てるべき物や事はこの世には無い。

8. 人を信頼しよう。人を信頼するとは、すへての人に虚心に接し、善のみを期待することである。人の虚偽のみを嗅つけて不信を抱きつづけることは靈魂を瘦せ衰えさせてしまうだけである。信頼は信頼を呼び起こし、助けを用意させる。神は絶えず信頼を持つものの側におられる。

9. 出し惜しみをしてますます貧しくなる者がいる。しかし、施し尽くしてますます富む者がいる。まさに与えるは受けるよりも幸いである。与えることは、自分が間もなく迎えるであろう天に宝を積む業である。この秘儀は深

5

5 幸いの扉を開ける

10. い。
外の力があなたを幸福にするのではなく、あなたのうちなる想念が貴方を幸福するのである。自分の内に住みたもう神は何時もそのように働いておられる。

1. あなたの内なる神は、何時もあなたが幸いになることを願っておられる。このような内なる神を、全幅の思いを以て信頼する智恵と勇気がなければ、人はいつも不安の中にいなければならない。神にある幸いへの勇気をもつことが信仰ということである。

2. 幸いは、何時も側にある。幸いを肯定しようとして想念するならば、神が何時でも側においでになり、限りなく恵みたもう如くに、幸いを見ることが出来る。

3. 黒雲が覆い嵐吹く下にあるときにも、太陽はその上で輝いている。どんな

時にも雲の上の太陽が輝いていることをわすれずにいよう。想念をその太陽の輝きに置いて、心配の雲を却下に見よう。神は言われる「恐れることはない」と。その神の愛に自分を置き、信頼の内に赤子の如くに神の愛のなかにいる自分を確信していよう。

4. 富や力の中にいることに寄り掛かって幸いを覚えるな。問題はどのような状況の中にあっても、自分が晴れやかに生きているか否かがもんだいであり、晴れやかにいるなら、その者は幸福なのである。神に在って生き信仰の生の幸いはここにある。

5. 幸福を倍加する最も簡単な方法は、他の人々と幸福を分かち事である。幸いを増すためには、自分の手にとるものの数の多さではなく、それを共に楽しみ喜ぶことができる者の数による。

6. 善を肯定し、それを感謝をもって喜び、絶えず人に親切の想念を持っている人は神にも喜ばれる、幸福者である。

7. 感謝を忘れることに比例して、その人は幸福から遠ざかる。

8. 感謝への勇気を持とう。それは幸福の場を造る働きである。神は人に感謝

6 成功への秘訣

9. の想念を喚起させる働きをしてくださる。
幸いとは命の充満である。感謝の想念こそ命を充満させる。神に生かされている自分を発見した者には、全てが感謝に変わる。そしてその人の人生は幸いに変わる。

1. 事情が人の幸運を決定するのではない。その人の生活に立ち向かう態度が決定する。

2. 万物はすべて、自分を育てるための神の贈りものである。敵意をもって立ち向かう勢力と言えどもその例外ではない。いたるところに、自分をそたてる働きがあることを見出す智恵を持つとう。これは自分の人生を完成させる秘訣である。人生の成功者とはそのような智恵を身につけた者である。

3. 一切の偏見を捨てよ。偏見は嫌悪と不調和とを生み出し、その結果、自分の偏見が自分自身を倒す結果を招く。偏見から自由になるものは、神の恵

みと善とをあらゆる所からくみ出す者となる。

4. 人生に対するひそかなる不信を一つ残らず放棄せよ。運命、境遇、人間に、対する偏見から自由になれ。神の恵みを人生のあらゆる所で見出し感謝し、自分の人生を積極的に、神に在って肯定せよ。

5. 後ろのものに捕らわれるな。後ろのものは、神に生かされる命を見出したことによって、恵と感謝とに変えよ。

6. 自分の内にある、解放されていない多くの能力と素質とが眠っている。

それらは、あなたによって呼び出されることを待っている。一体誰が邪魔をしているのか。あなた自身の想念である。それを発掘しそれを肯定してやるのはあなた自身である。あなたの中で眠っている宝を発掘して働かすためには、あなたが、その未知の力の存在を信じている宝を発掘して働かす神の前に自分を生かすことになる。その力を信じないことは神と自分に對する怠惰である。

7. だれの内にも「助け主」がおられる。イエスはその方をパラクレイトスと言われた。助け主に働いて頂くことを願うことが、どれほど大切なことか

人は知らない。自分の内に助け主を感じることに覚えること、感謝すること、働いてくださり、神の栄光のために、自分を用いて頂くことを熱心に祈れ。その時、偉大なる神の力が、その者の内に創造的に必ず働きだし、その人は変わる。

8. 外部から与えられるものにはかり振り回されるな。それらを眺めて楽しむだけの生活をするな。そこからは創造的な命はなにも生まれない。創造的な命や力は、靈魂の深みに於いて関わることができ、静寂の彼方から人の靈魂に流れ込んで来て、その者を創造的人間に変える。

9. 神はすべての人を愛しておられるということは、すべての人が善く生きることを積極的に押し進めようとされていることである。そのように生かそうとしている肯定的な神の力と御意志を確信し、自覚して毎朝起き、毎晩床につけ。

10. どのような敵も、どのような不幸と思われることも、あなたの為になろうとしている大いなる命の流れの一部にはかならない。この真理を自覚して万事に完全な積極的態度を以て接するなら、そこに必ず神の不思議な配慮

に出会うだろう。すべてのこと相働いて万事を益としてくださるのが神の力であり愛である。

11.

神の御意志は積極的であり、肯定的である。大いなる命の流れはすべてを善の力で漲らそうと昨日も今日も明日も働き、あなたに働きかけている。

あなたはその命の中に生かされている者なのだ。だから恐れる事はない。

12.

何もせず、何も信ぜず、さまざまな懸念を抱いて、消極的で否定的な弱々しい安心にうずくまっているなら、あなたは人生の宝をどぶに捨てるような生き方をしている者である。ここから、あなたを立ち上がらせる秘訣がある。それは、あの大きいなる神の積極的な命を働きと自分が一つであと自覚することである。この想念があなたの命を躍動させ、古きを過ぎ去らせ見よ、あなたは新しくなる。

1. 神の命と愛とによって肯定されて生きている自分であることを確信する。
2. 思い煩いを捨て、神の恵みに全てを委ねて、完成させてくださる神を信じて、自分が置かれた所で最善をつくす。
3. どのような事態の中にも、肯定的に恵みを見出して常に感謝すること。
4. 自分だけでなく、常に周囲の者と共に、善なること、喜ばしいことを共に分かち合い、神に感謝しようとするところがける事。
5. 何時も、神こそ すべての創造者、保持者、完成者であることを覚え、常にその神の働きを覚えることを、日常に習慣づけること。
6. 神は恵み深くその憐れみは永久にたえる事が無い。
7. 死んでも生きても神の内。